

奈良市第5次総合計画後期推進方針策定に向けた高校生ワークショップ「未来の奈良、キミが描く！高校生まちづくりセッション」概要

01 開催概要

奈良市第5次総合計画後期推進方針の策定に向けて、2031年という最終年度を見据え、高校生から奈良市への率直な感想や期待、不満、そして「こうなったらいいな」という希望やアイデアを集めるためにワークショップを開催しました。

また、「後期推進方針」という行政計画の存在や、そこに若者の意見が反映されるプロセスについて理解を深めてもらい、将来の市政への関心を高めるきっかけとしてもらうことも目的としています。

日時：2025年12月18日（木）
会場：一条高校 1階コモンズルーム
参加者数：一条高校・附属中学校生徒 12名
市職員 4名

▼ワークショップ終了後の記念撮影



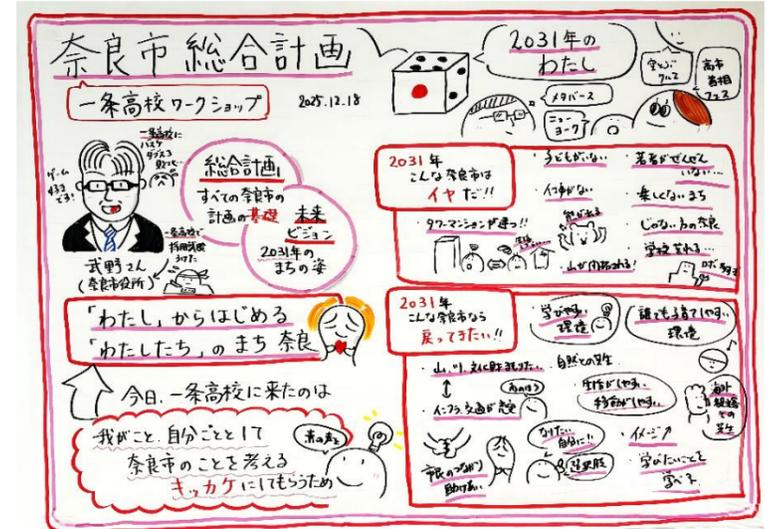
02 ワークショップの流れ

ワークショップは、奈良市総合政策課の職員による開会挨拶と総合計画についての説明から始まりました。続いて、参加者同士の緊張をほぐすために自己紹介ゲームを行い、和やかな雰囲気の中でワークがスタートしました。

最初のワークでは「自分が2031年にはどうなっている？」をテーマに、将来の自分について考えました。次に、「2031年こんな奈良市はいやだ」というテーマで、理想とは異なる奈良市の姿について意見を出し合いました。さらに、「2031年にこんな奈良市なら戻ってきたい」というテーマで、将来住みたいと思える奈良市のアイデアを話し合いました。

最後に、各ワークで出た意見を全体で共有し、参加者全員で振り返りを行いました。

▼当日のグラフィックレコーディング



03 ワーク①「自分が2031年にはどうなっている？」

ワーク①「自分が2031年にはどうなっている？」では、参加者が2031年の自分を自由に想像し、自己紹介を行いました。

サイコロを振って、住んでいる都市や話題を決めるゲーム形式で進行し、奈良や東京、ニューヨークなど様々な都市に住む自分を想像しました。

例えば、「2031年の私はニューヨークに住んでいて、最近驚いたことは空飛ぶ車が実用化されたことです」といった具合に、未来の出来事を大きく広げ、参加者が2031年の自分を想像することで、未来の奈良市を考えるきっかけとなりました。

▼サイコロを振り、未来を夢想します。



04 ワーク②「2031年こんな奈良市はいやだ」・③「2031年にこんな奈良市なら戻ってきたい」

① ワーク②「2031年こんな奈良市はいやだ」

このワークでは、参加者が「将来こんな奈良市にはなってほしくない」と思う姿について意見を出し合いました。

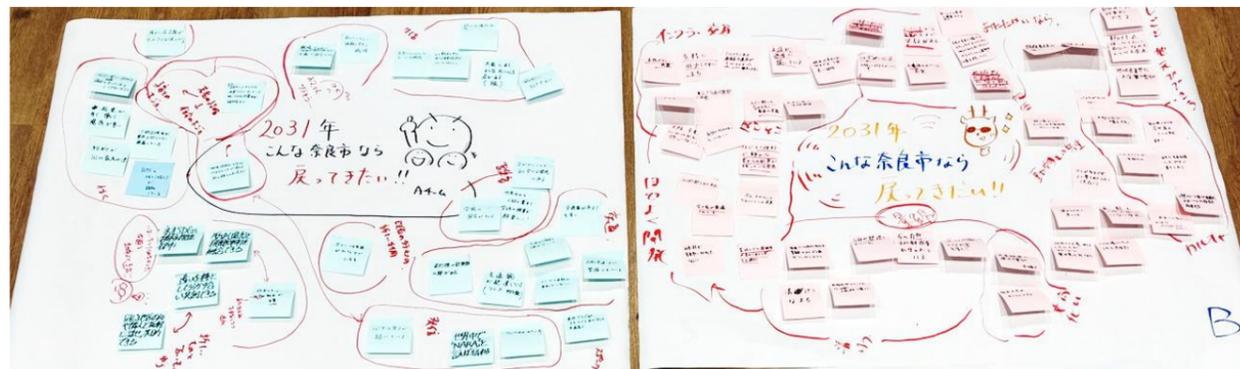
「道路ががたがた」「治安が悪い」といった生活のしづらさを懸念する声や、「市内に高層ビルが乱立している」「若草山にソーラーパネルや電飾だらけ」など、奈良らしい景観や自然が損なわれることを心配する意見が挙がりました。

また、「若者が少ない」「奈良で働く人が少ない」「こどもがいない奈良」といった人口減少や活気の低下を危惧する声も多く見られました。

さらに、「生活や観光などの分野において排他的である状態や環境」「クラスの半分が不登校」「近畿で“じゃない方”と言われる」など、社会的な孤立や奈良のイメージ低下を心配する声も出ました。

全体を通して、奈良の良さが失われたり、住みにくくなったりすることへの強い危機感が共有され、参加者それぞれが多様な視点で奈良の未来を考えていることがうかがえました。

▼グループワークの模造紙



② ワーク③「2031年にこんな奈良市なら戻ってきたい」

このワークでは、「将来、こんな奈良市なら住みたい・戻ってきたい」と思える理想の姿について意見を出し合いました。

「気軽に外出しやすいまち」「道路がきれい」「公共交通機関の発展」など、暮らしやすさや利便性を重視する声が多く挙がりました。

「自分のやりたい仕事ができる」「起業が多く、働く場所が多い」「新しいことに挑戦しやすい職場」など、若者が活躍できる環境を望む意見も目立ちました。また、「空き家が整備されている」「里山が多い」「自然と稼ぐが調和している」など、自然や地域資源を活かしたまちづくりへの期待も寄せられました。

「しかまるくんが全国ヒット」「バサラ祭りが続いている」「世界中で“NARA”と言えば伝わる」など、奈良の魅力や文化が広く発信されることを願う声もありました。

参加者の多様な希望やアイデアが集まり、奈良市の将来に対する前向きな期待が感じられるワークとなりました。

▼各ワークで出た意見を共有しました。

